

従業者向け

児童発達支援事業所・放課後等デイサービス（多機能型事業所）自己評価表

令和7年度 ハッピーテラス静岡八幡教室

はい○ いいえ×

		チェック項目	A	B	C	D	E	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○	○	○	○	○	子どもの年齢・発達・情緒・特性等に応じた部屋割りなどを考え、環境や体制を整えている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○	○	○	○	○	利用する子どもの数や状態に適した職員数及び体制で運営している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○	×	×	×	○	子どもの安心安全につながる環境設置を心がけるとともに、療育スペースは過度な装飾はせず、刺激を軽減したシンプルな環境構成にしている。玄関には段差があるため簡易スロープを設置した。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○	○	○	○	○	室内外の環境美化や、室内の消毒や空調管理等に留意している。特に、日々の清掃や換気は欠かさず行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○	○	○	○	○	個別療育のため、個別空間は確保できるが、時間帯によっては、カーテンで区切り、子どもが集中できる空間を提供している。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○	○	○	×	○	職員間の打ち合わせや会議の場で行い、必ず会議録を残している。構造化までは至っていない部分もある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	○	×	○	○	保護者アンケートの結果及び意見をまとめ「アンケート結果の報告」として全利用者へ周知している。事業所の駐車場に駐車スペースラインを引くなど、利用者に分かりやすい工夫をしたと考えているが、賃貸契約のため実行には至っていない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○	○	○	○	○	定期的に全職員で会議を実施するなど、意見を伝達し合う場を設けている。また職員同士の意思決定や改善策の実行などは迅速に対応できるよう努めている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	×	×	×	×	×	第三者による外部評価について検討はしているが、評価者の選定が難しく実施には至っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○	○	○	○	○	職員が個々にスキルアップできるよう研修案内を周知したり、勤務時間内に受講できるよう工夫している。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○	○	○	○	○	支援プログラム（支援内容年間計画表）を5領域に基づき作成し、ホームページで公開している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○	○	○	○	○	子どもの発達や保護者の思いを丁寧に把握している。職員間で認識が異なる場合もあるので、アセスメント前に共通理解を図り支援の方向性を定めている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○	○	○	○	○	児童発達支援管理責任者と職員が話し合い、こどもの支援目標や必要な手立てなどを検討している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○	○	○	○	○	個別支援計画は常に職員間で共有するとともに、共通認識のうえで支援を行っている。指導員によって異なるアプローチをする場合も目標から逸れず有益なものになるよう留意している。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	○	○	○	○	発達スケールなどを活用したアセスメントを実施したり、子どもの日常生活や保護者の気持ち等をありのままに聞き取り、総合的なアセスメントができるよう心がけている。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	○	○	○	○	「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」全ての項目を支援計画に設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	×	○	○	○	×	活動プログラムの立案は全職員で行わず、児童発達支援管理責任者が主となり、年間プログラムを作成している。それをチーム内で共通理解しながら個々の支援で考案を立てている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	○	○	○	○	活動プログラムは全職員が常に確認できると同時に、プログラムに沿って様々な支援内容を個々に応用し、多様な活動を実施している。

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	○	○	○	○	個別療育と小集団（またはペアトレーニング）活動を組み合わせている子については、個別支援計画においても両方の支援目標を設定し行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	○	○	○	○	支援開始前には朝の打ち合わせにおいて、その日の支援・設定・準備・役割などを確認している。職員間で情報共有することで、こどもの表れを多様な視点で分析している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	×	○	○	○	○	支援終了後に全員で振り返りを行う時間は持てないが、その日の支援において共通理解が必要な事柄は伝達し合ったり、共有事項に記載したりしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	○	○	○	○	支援記録は目標に添って評価と内容を入力することを欠かさず行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	○	○	○	○	モニタリングは適宜実施し、支援計画の内容の評価と見直しを行っている。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	○	○	○	○	子どもの状況を詳細に把握できるよう、事前に職員間で情報共有をしてから、代表者が会議に出席するようにしている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	○	○	○	○	幼稚園・保育園には定期的に訪問し連携を図っている。医療・福祉・相談事業所等には保護者からの依頼等があれば連絡相談などを行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○	○	○	○	個別療育と集団活動につながりを持った支援をするよう心掛けている。また、園訪問時に子どもの発達や支援目標を共有し、相互に支援時の配慮や工夫を伝達したり、助言を行ったりしている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	×	○	×	○	保護者からの依頼に応じて情報共有（訪問または書面での情報提供）を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	-	-	-	-	-	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-	-	-	-	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。						
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	×	×	×	×	×	児童発達支援センターと連携できる機会や、スーパーバイザーとなる人との関係性は現在できていない。それに代わる窓口（医師や専門職員など）には、必要に応じて相談助言を受けるようにしている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	×	×	×	×	×	職員が園訪問に向う機会はあるが、事業所に通所する子どもが近隣の園児と交流をする機会は現在のところない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	○	○	○	○	支援後のフィードバックにおいて子どもの様子を伝えると同時に、保護者からは家庭や園での様子などを聞くなど、適宜子どもの状況把握に努めている。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	○	○	○	○	保護者からの要望に応じてペアレントプログラムを個別に実施している。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	○	○	○	○	契約時または、支援計画更新時に規定や支援プログラムについて説明を行っている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	○	○	○	○	子どもの思いと保護者の願いが一致していることも確認しながら、支援計画を作成するよう心がけている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	○	○	○	○	全ての保護者に支援計画の説明を行い、計画内容に同意を得たうえでサインをいただいている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	○	○	○	○	育児の悩みや就学の相談など、保護者からの依頼に応じて面談を実施し具体的な助言を行っている。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	×	×	○	×	父母会活動はないが、事業所主体で保護者勉強会において、保護者同士の交流や意見交換会を実施した。個別療育が主となるためきょうだい同士で交流する支援時間はない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	○	○	○	○	相談はいつでも対応することを周知しているとともに、相談の申し出があった際はすぐに話をする日時を決め相談に応じている。また意見箱を玄関に設置し、いつでも意見を伺えるようにしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	○	○	×	○	定期通信はないが、保護者への通知は適宜HPまたはLINEにてお知らせしている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	○	○	○	○	個人情報に関連する書類等は鍵付き書庫に保管している。また、子どもの氏名が分かる物を放置しないなど留意している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	○	○	○	○	保護者及び子どもへの伝達は相手に分かりやすく確実に伝わるよう留意している。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	×	×	×	×	×	事業所が地域住民を招待してイベントを開催することは現在おこなっていない。今後、地域との関わりを持てる行事や活動について可能な範囲で検討してみたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	○	○	○	○	マニュアルを作成し玄関掲示などで周知している。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	○	○	○	○	業務継続計画を策定し、定期的に避難訓練を実施している。また、策定から訓練実施などに関する記録も保管している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	○	○	○	○	身体の状態や服薬などについては、アセスメントの中で話を聞いて確認をしている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	—	—	—	—	—	当事業所において食事の提供や調理活動はなく、医師の指示書を求めることはないが、イベントなどでお菓子を配布する際は保護者に確認を行っている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	○	○	○	○	非常時の安全計画を作成すると同時に、安全管理に関する研修を受講したり職員間で共通理解を図ったりしている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	○	○	○	○	安全計画に基づき年間計画等で周知している。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	○	○	○	○	ヒヤリハット事案があった場合は、ヒヤリハット報告用紙への記入と、職員間での情報共有を行い対応策を検討している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	○	○	○	○	虐待防止研修で学んだことを、職員同士で共通認識したり、日頃からの留意点を挙げたりしている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	○	○	○	○	当事業所において、現在該当児はないが、拘束に値する行為の確認や、止む無く拘束をする場合の事前説明や手順・記録などの方法を用意している。